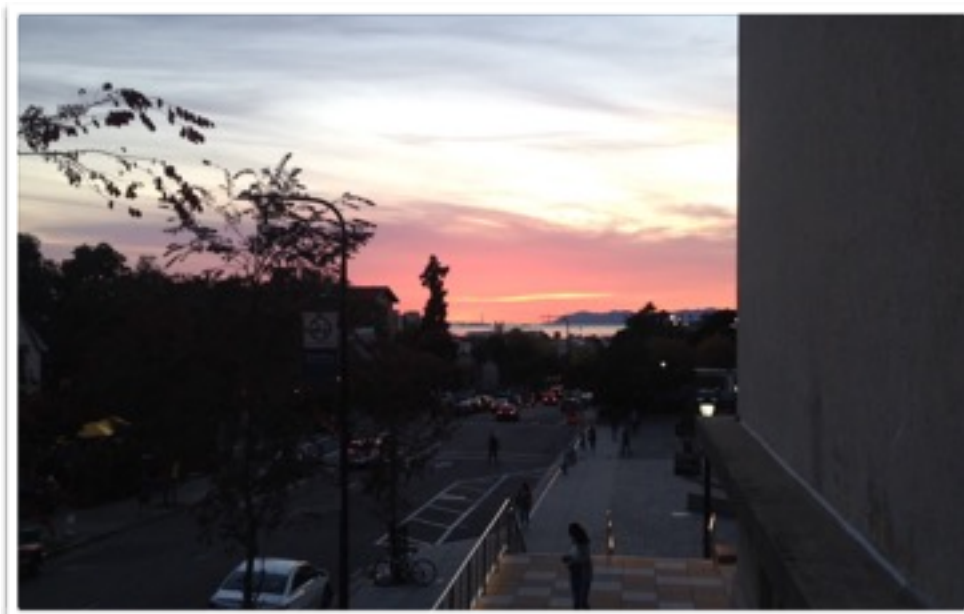


第二回報告書

2016年度奨学生 澁谷 陽子



(写真) バークレーの図書館からの夕日。土日はよくバークレーで勉強しています。

報告書の提出が遅れてしまい申し訳ございません。スタンフォード大学経済学部にて在学しております澁谷です。留学1年目の最初の学期を振り返ります。

生活

私はキャンパス（パロアルト）から一時間半離れたサンフランシスコに住んでいます。1年目は授業数が多いので、平日は毎日カルトレインという高速列車に1時間ほど乗って通学をしています。最初の頃は、カルトレインで寝過ごしてしまったり、キャンパスが広すぎて迷ったりして、先生とのミーティングに2時間遅刻してしまったこともありましたが、慣れると通学時間も苦ではなくなりました。平日は通学時間が長くて少し損をしている気がしますが、休日はショッピングや映画などサンフランシスコで色々楽しんでいます。金曜日の夜はクラスメイトがサンフランシスコまで飲みに来てくれます。家の周りやキャンパス付近の写真を撮るのを忘れて日本に一時帰国してしまったため、次の報告書作成時にはたくさん写真をとって、生活をご紹介できたらいいなと思います。

授業

1年目は経済学博士課程で必修のコースワーク(マクロ、ミクロ、計量経済学)と英語の授業を受けています。日本での修士時代にコースワークは一度履修しているものの、内容が違ったり忘れてしまっていたりで、試験前は必死になっていました。学生に一番人気だったのはマクロ経済学の授業で、Dynamic Programmingという最適化の方法とそのコードの打ち方を一学期間まるまる使って教えてもらいました。Martin SchneiderとMonika Piazzesiというマクロの分野で大御所のお二人(ご夫婦)が先生でしたが、二人ともとても気さくで、教えている内容や教えること自体にとっても情熱を持っているのが伝わってきて、私の目標とする先生になりました。この授業では毎週のコーディングの宿題と家に持ち帰って解く試験の二つで評価が決まることになっており、宿題をランダムに割り振られた3,4人のグループで答えを一つにまとめて提出することが義務付けられていました。期末試験一発勝負の評価方式に比べると楽なように感じますが、グループに貢献しなくちゃいけないという緊張感で3科目の中で一番多くの時間を割き勉強しました。結果的に同じグループだったイタリア人とアイルランド人の男の子とはとても仲良くなりましたし、一番多くの知識を得た授業になりました。

ミクロ、計量経済学は日本にいた頃に習ったものとあまり内容に違いはありませんでした。日本で習ったときも今回も、計量経済学1は、「いつかきっとこの勉強が役にたつ日が来るはずだから頑張ろう。」と念じて勉強をしていましたが、未だ役立つ機会がなく、今後も役立つ未来が想像出来ず、モチベーションの維持に苦労しました。

2学期目に向けて

理系の博士課程と違い、経済は2年目まで授業を主に受け、3年目以降に本格的に研究がスタートするため、1学期目と同じように授業だけの生活がしばらく続きそうです。一学期目の反省として、授業にばかり気を取られ、最近の論文を読む時間を作れなかったのが、来学期は意識的に論文を読む時間を作ったり、ワークショップに参加したりして最先端の研究に触れたいと思います。目に見える成果を出すまでには相当な時間がかかってしまいそうですが、支援してくださっている船井奨学金の関係者の方々に少しでもお返しができるように日々精進します。